

メータオ・クリニック支援の会（JAM） 会報メール 第81号

[2016年2月号]

NPO法人メータオ・クリニック支援の会（JAM）支援者の皆様

いつもご支援していただき、誠にありがとうございます。
JAM 会報メール第81号をお送りします。

JAM は2008年3月に発足されたNGOです。ビルマ／ミャンマーからタイへ貧困や戦火を逃れてきた人々の病院、メータオ・クリニックの活動を支援する目的で設立されました。

支援者の皆様へJAMの最新の活動をほぼ毎月中～下旬ごろ会報メールにて発信いたします。
今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

<目次> [ページ]

運営メンバーになりませんか？

メソトマンスリー

国内から

編集後記

次号の予定



運営メンバーになりませんか？

みなさまの温かなご支援と応援に支えられ JAM は今年で9年目を迎えます。現地派遣員も6代目、「寄り添いながら」の理念を大切に、現場の声に耳を傾けながら活動にあたっています。見守り続けてくださるみなさまに、心より感謝申し上げます。

日本では、現地派遣員を通じて届けられる報告をもとに、クリニックの挑戦をいかに支えるか、月に一度メンバーが集まり検討を重ねています。

先月の会報でも触れさせていただきましたが、**運営メンバー(正会員)の活動をボランティアで一緒にやってみたいという方を募集しています。**

定例会は、月に一度、主に第四日曜日の午前中、東京・飯田橋に集まって現地とインターネットで会議をしています。必ず毎月出席しなければならない、ということはありません。英語やタイ語の語学力も知識や経験等も問いません。活動に伴う交通費等のお支払いもできませんが、ご興味ありましたらぜひ事務局までお気軽にお問合せください。

また、「正会員まではちょっと・・・」という方も、**当会の活動についての感想、ご意見、ご提案がありましたら、どうぞお聞かせください。**「こういうイベントがあります」「当会の活動について、こういう風にPRしませんか」など、随時、当会あてにメールをいただけますと嬉しいです。

今年もみなさまからいただいた貴重なご支援とお気持ちをしっかりと現地へ届け、着実な活動を続けて参ります。本年もメータオ・クリニックと JAM を見守っていただけますようどうぞよろしくお願い申し上げます。

メソトマンスリー

【メソト＝神谷 友子】



最近のメソット

「ミャンマー人の看護トレーナーが着任しました」

メータオ・クリニックでは、スタッフへの看護教育を進めて行こうと2年前からカリキュラムやプログラム作成などの準備を進めていました。2月8日よりミャンマー人の看護師サラさんが看護トレーナーとして着任し、これから本格的な看護教育を進めて行く予定です。最初の週はメータオ・クリニックの病棟内を一緒に見て回り、現状把握と問題点の抽出を行いました。サラさんは難民キャンプ内でのメディックや看護師としての経験があり、さらに看護トレーニングやテキスト作成なども行っていたそうです。サラさんは、病棟内の薬棚をチェックして、期限切れの薬品はないか、保存方法は適切かなど細かく観察していました。カレン族の人で、カレン語、ミャンマー語、タイ語、英語ができるため、現地スタッフや患者さんともスムーズにコミュニケーションがとれるので、とてもうらやましくも感じています。彼女は優しい雰囲気です、周囲の人にもすぐに溶け込んでいます。メータオ・クリニックの姉妹団体であるスワンナミンファンデーションのタイ人看護師ピクンさんからもタイ国内での



標準的な看護についてのアドバイスを受けるなど、メータオ・クリニックへの看護教育導入のこの時期と一緒に働けることにとってもワクワクしています。2月末には外科病棟からいよいよ新クリニックに移転して、順次他の病棟や外来も移転予定です。現時点では5月初旬には新しいクリニックで全ての部署が稼働できるよう、いろいろな物品が少しずつ運ばれています。このタイミングで5S や看護ケアなどいろいろ改善できるようにうまく介入していけたらと思っています。



小児科外来で患者指導の様子を見学しているサラさん(右下)

きょうのゆめ

今月は、メータオ・クリニックの学校保健部門で働いている、San Myint Htun サン・ミン・トンさんにお話を伺いました。

サンミントンさんは1990年生まれの26歳男性、ミャンマーはカレン州の州都パアン(Hpa-An)に近いラインベイ(Hlaing Bwe)という村に生まれました。13歳の時に父親が喉頭がんのため38歳の若さで他界。地元の村では13歳までしか教育を受けることができなかったため、勉強を続けるために祖母と一緒にパアンへ移住しました。高校を卒業後、英語の勉強ができるとの母親のすすめで、親戚の住んでいるメソトへ。

この叔父さんが移民学校CDC校の校長先生で、その紹介でメータオ・クリニックに最初はボランティアとして働き始めました。6か月のPublic Relationshipのボランティアの後、CHW(コミュニティヘルスワーカー)になるためのトレーニングをノボ難民キャンプで6か月。CHWとして外科病棟で3か月、内科病棟で6か月勤務した後に(CHWの次のステップのメディクの研修を受けるためには、2か所の病棟勤務経験が必要とのこと)、通常のメディク(1年6か月)よりさらに長期間のトレーニングが必要なHealth Assistant Training(2年)。このヘルスアシスタントのトレーニングは、メータオ・クリニックのトレーニングの中で最も期間が長く、現在200人以上いる全スタッフの中でも10人ほど。ヘルスアシスタントとして内科病棟に6か月勤務した後に、2013年から現在の学校保健部門へ異動。2014年にはCPHという公衆衛生の1年間のトレーニングも受けています。仕事をしながら、週に2回金曜日と土曜日にトレーニング、日曜日は試験があり、トレーニングの期間中はとても忙しいそうです。この学校保健の部門、以前は「school health unit」という名前だったのですが、現在は「community health promotion(地域健康促進)」という名称に代わっています。この部署は学校保健だけではなく、Reproductive Health(性と生殖：性教育や、妊娠・出産・家族計画について)Health promotion and disease control(健康促進と疾病対策)の3つのチー



ムに分かれていて、サンミントンさんは学校保健コーディネーターを経て、昨年11月より健康促進・疾病対策コーディネーターの役職についています。学校保健の活動では、学校保健のアセスメントや、予防接種、健康教育トレーニングを移民学校で行っています。移民学校に訪問すると、毎回病気やケガのこどもがいると先生から相談があり、その場で診察してアドバイスをしたり、必要があればメータオ・クリニックへ一緒に連れて行くこともあります。内科病棟での勤務経験が活かされていると思いました。

また、彼はミャンマーにある大学の3年生でもあります。毎年1～2か月間、大学での集中講義と試験がありその期間は仕事を休んでミャンマーで勉強しています。この地域に住んでいる移民の人はこのような形で勉強を続けている人も多くいます。

趣味はフットボールと音楽鑑賞。オフィスでもよく音楽を聴きながら仕事をしています。ギターができる地域に出た時のコミュニケーションに役立つからと、お友達がプレゼントしてくれたギターを最近は毎日練習しているとのこと。

そんな彼の夢は、大学を卒業した後、奨学金がもらえたら大学院で公衆衛生を学んでPHD(博士号)をとること。その後はメータオ・クリニックで働いて、今まで自分が教わってきた恩返しをしたい。メータオ・クリニックでは分からないことがあっても、他の部署の先輩でも教えてくれる。そしていずれは故郷のミャンマーで地域での健康促進に関する仕事をしたいとのことでした。ミャンマー国内では、健康に関する知識がないために命を落とす人も多いのです。

今の役職は、今までの学校保健よりさらに広範囲にわたる仕事で、タイの保健局と協力したり、地域に出たキャンペーンや、地域ボランティアのトレーニングをするなど、初めてのチャレンジだからどれだけできるか分からないけど、ベストをつくしたいと意気込んでいるようです。

ミャンマーや移民難民、カレン族のことについて聞くと、政治的なことはよく分からないけど、食料はもちろんいろいろなものが不足している。日常生活においても問題が多く、経済的な問題で学校へ行けないこどももいる。学校には授業料を払わないといけないし、文房具を買うお金のない家庭も多い。同じ村にも学校へ行くことのできない友達がたくさんいた、と。ミャンマー国内は混とんとしていて、決して住みやすい場所とは言えない。

最後に、日本のサポーターへのメッセージを伺いました。「私たちだけではなく、この周辺のコミュニティにもたくさんサポートをしてくださって感謝しています。移民学校では、校舎の修繕、台所がない、冷蔵庫がない、生徒の寄宿舎の布団がない、食料が足りない、先生に払う給料が足りない、そのため先生も足りない、文化的な活動をするためのお金がないなど、慢性的に支援を必要としています。」

JAMと学校保健部門とで行っている、栄養改善や音楽交流の活動は主にサンミントンさんが中心となって動いています。また、オフィスでも後輩の面倒をよくみていて頼もしい先輩といった感じです。とても向学心があり、私も頑張らないと思います。

そんなサンミントンさんの夢がかなって、ミャンマー国内での健康教育が広がりますように。





地域促進部門のオフィスにて。スタッフ全員分の PC がないので、譲り合って使っています。毎朝交代で当番が掃除をしているので、この部署の部屋は他と比べるときれいです。サンミントンさんは私と一緒に水曜日担当。



マーケット内での健康チェック活動にて、血圧測定をするサンミントンさん
必要な人には薬剤の配布も行っていました。



2月14日 移民学校の先生の結婚式にて。
昨年、靴の寄付をお届けした48KMという学校の先生です。

国内から

【東京＝斉藤】

コミュニケーションに必要なこと

JAM 会員みなさま、お久しぶりです。2013年の夏にスタディーツアーに参加してから正会員として活動に参加させていただいております斉藤と申します。前回記事を書かせていただいたのは2年ほど前で、まだ学生でした。現在は手術室で看護師として働きもうすぐ2年目が終わろうとしています。

昨年の夏にイタリアへ行った時のことです。友人と私2人共イタリア語が話せないため、片言の英語と日本語で押し通し、現地の方になんとか理解してもらう形でコミュニケーションをとった旅でした。絵や建物などの説明もイタリア語か英語がほとんどであり、現地のことを理解するためにも英語力の必要性を具体的に感じた旅行でした。

年明けに京都へ旅行に行った時、京都はほとんどのお店で英語や中国語のメニューがあり、海外からの旅行者も過ごしやすくだろうなと感じました。一番そう感じたのが、普通に道を歩いている70歳くらいの夫婦が、道に迷っている旅行者に「どこ行きたいの?」「それはあっちだよ!」と話しかけていることでした。ほとんど日本語とジェスチャーでしたが、その思いやりに感動しました。

病院の場所柄、海外からの旅行者の緊急手術をうけることもあります。患者はほぼ日本語がわからない、急に手術が必要だといわれたという中で、「患者によりそった看護とは?」と悩むことがよくあります。手術の準備など片言の英語をなんとか理解してもらう形になってしまいますが、手術後「thank you」と言われると、もっと流暢に英語が話せればもう少し患者によりそった声掛けができるようになるのにと悔しさと、この人と話したいという心の持ち方が大切だなと感じる日々です。



京都の写真

平安時代、「雲のない夜空にまるで月が橋を渡っているよう」な様子から名付けられたという渡月橋の写真です。あいにく新月だったため月の姿はみられませんでした。きれいでした。



イタリアの写真



ミラノのドゥオーモです。横のガレリア内、プラダの斜め前にある雄牛のモザイクには止まらずにかかとで3回転すると「幸福になれる」という言い伝えがあり、一部分だけ穴が空いていました。

編集後記

現在、JAMでは、一緒に運営に携わってくださる仲間を募集しています。

メータオ・クリニックという病院の支援をしていることもあり、現在のメンバーは、医師、看護師、保健師といった医療従事者が多くを占めます。現地派遣員は、派遣期間中はJAMの活動に専念していますが、日本にいる事務局メンバーは全員、JAMとは別に生業があり、仕事や家庭との両立をしながらJAMのことは無償ボランティアで活動しています。

医療従事者は、医療についてのことはできますが、交渉ごとや書類作成、営業など、民間企業に勤める会社員なら知って当然というようなことに多少疎い部分があるのは否めません。これからも健全に会を運営していくためには、物資や金銭面での支援も必要としていますが、特に医療以外のことに長けた方に事務的なことをサポートしていただける方がお手伝いをしていただくと非常に心強いです。

賛助会員の皆様も全国におられ、会報やフェイスブックで随時現地のことはご報告させていただいていますが、こちらからの一方的なご報告ばかりではなく、双方向での関わりを持っていただけたらと考えています。できる範囲で少しだけかじってみる、程度のかかわりで十分です。どうか少しでもご興味がありましたら、お気軽にご連絡ください。ボランティアまでは、できないわ、という方も、会報やフェイスブックなどを見た感想やご意見をどうぞお寄せください。よろしくお祈りします。

次号の予定

次号は、3月中～下旬ごろ配信の予定です。

ホームページは、随時更新してまいりますので ぜひ、お時間があるときにご覧ください。



